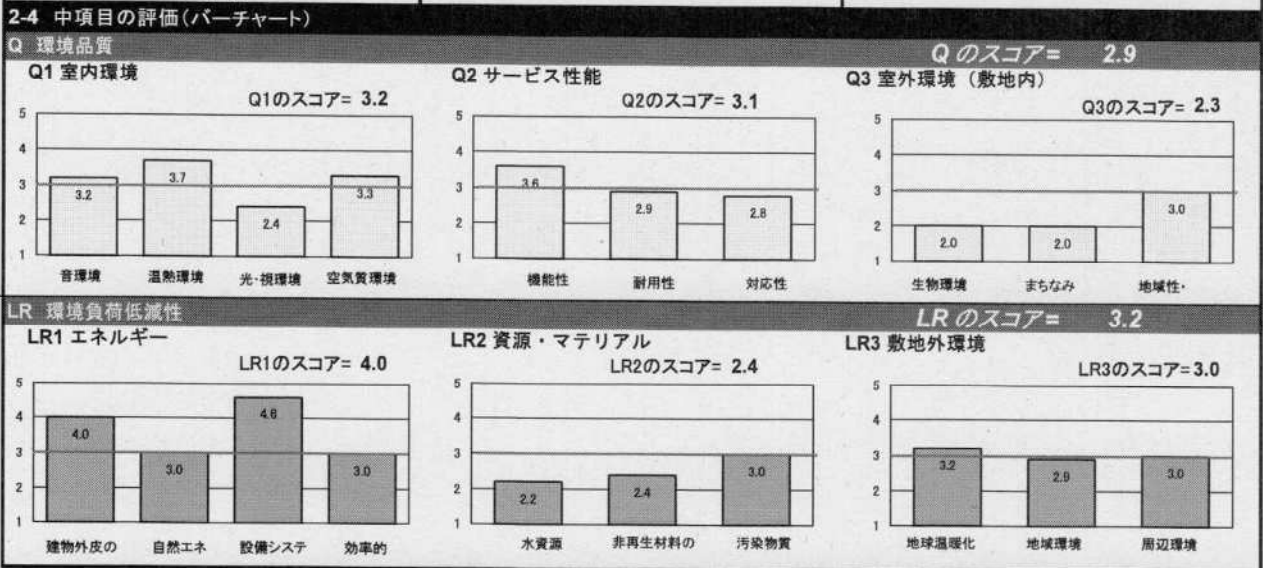
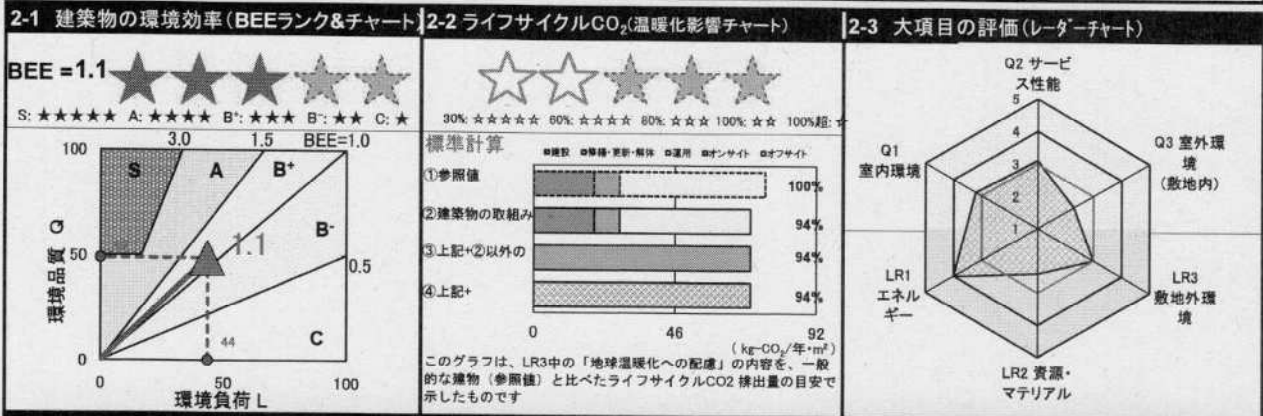
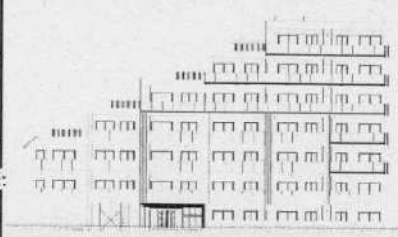


CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレシス浦和美園 新築工事	階数	地上7F
建設地	埼玉県さいたま市緑区奥三丁目9番12.8号13.9番22.9番23	構造	RC造
用途地域	準住居地域、準防火地域	平均居住人員	231人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2023年3月9日
敷地面積	1,836 m ²	作成者	株式会社プラスデコ 一級建築士
建築面積	939 m ²	確認日	
延床面積	4,046 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 断熱等性能等級で等級4や、開口部遮音性能T-2を取得など行い、付加価値を設けた。		その他 特に無し。
Q1 室内環境 開口部遮音性能T-2を取得し、室内環境向上に努めた。	Q2 サービス性能 CAT5Eを採用し、Gbitクラスのブロードバンドの利用可能な環境に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 特に無し。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級で等級4を取得予定であり、高い断熱性能のある建築材を採用し建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 特に無し。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮を行った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)プレシス浦和美園 新築工事

 ■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート 基本設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	Q1		Q2		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q1 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.40			3.2
1 音環境		4.0	0.15	3.2	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		5.0	0.50	3.4	0.50	
1 開口部遮音性能	共用・住居:遮音性能T-2以上	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	L-50以下	3.0	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	4.0	1.00	3.7
2.1 室温制御		2.2	0.50	4.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	断熱等性能等級:等級4	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.0	0.25	2.4	1.00	2.4
3.1 昼光利用		1.8	0.30	1.9	0.50	
1 昼光率		1.0	0.60	2.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.3	1.00	3.3
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		2.4	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	CAT5Eを採用	3.0	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	2.8	0.30	2.8	1.00	2.8	
		2 空間の形状・自由さ	3.0	-	3.0	0.50	-	
	3.2 荷重のゆとり	1 床面積	3.0	-	3.0	0.60	-	
		2 床面積のゆとり	3.0	-	2.0	0.40	-	
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性 2 給排水管の更新性 3 電気配線の更新性 4 通信配線の更新性 5 設備機器の更新性 6 バッテリ・UPSへの確保	1 空調配管の更新性	2.8	1.00	3.0	0.50	-
			2 給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	-
			3 電気配線の更新性	2.0	0.20	-	-	-
			4 通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	-
			5 設備機器の更新性	3.0	0.10	-	-	-
			6 バッテリ・UPSへの確保	3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出	-	0.30	-	-	-	2.3	
	2 まちなみ・景観への配慮	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
	3 地域性・コミュニティへの配慮	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
LR 建築物の環境負荷低減性	LR1 エネルギー	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.30	-	-	3.0	
		3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・エネルギー	LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制	-	0.40	-	-	3.2	
		2 自然エネルギー利用	4.0	0.20	-	-	4.0	
		3 設備システムの高効率化	3.0	0.10	-	-	3.0	
		4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.6	0.50	-	-	4.6
			集合住宅の評価	3.0	0.20	-	-	3.0
		4.1 モニタリング	3.0	1.00	-	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	
		4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-	
		LR2 資源・エネルギー	LR1 エネルギー	1 水資源保護	3.0	0.50	-	-
1.1 節水	-			0.30	-	-	2.4	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	2.2			0.20	-	-	2.2	
1 雨水利用システム導入の有無	1.0			0.40	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0			0.80	-	-	-	
2 2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0			1.00	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減			2.4	0.60	-	-	2.4
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.10	-	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	1.0	0.20	-	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	0.10	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避	3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.20	-	-	3.0		
	3.2 フロン・ハロンの回避	3.0	0.30	-	-	-		
	1 消火剤	3.0	0.30	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.70	-	-	-		
LR3 敷地外環境	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮	4.0	0.50	-	-	3.0	
		2 地域環境への配慮	2.0	0.50	-	-	3.2	
		2.1 大気汚染防止	2.0	0.33	-	-	2.9	
		2.2 温熱環境悪化の改善	2.9	0.25	-	-	-	
		2.3 地域インフラへの負荷抑制	3.0	0.50	-	-	-	
		1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-	
		2 汚水処理負荷抑制	2.7	0.25	-	-	-	
		3 交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	
		4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-	
		2.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮	3.1 騒音・振動・悪臭の防止	1 騒音	3.0	0.33	-	-	3.0	
		2 振動	3.0	0.40	-	-	-	
		3 悪臭	3.0	1.00	-	-	-	
		3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	1 風害の抑制	3.0	0.40	-	-	-
			2 砂塵の抑制	3.0	0.70	-	-	-
		3.3 光害の抑制	1 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-
			2 日照阻害の抑制	3.0	0.20	-	-	-
		1 日照阻害の抑制	3.0	0.70	-	-	-	
		2 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-	